

近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。

地方凡例錄

十

70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80

7
5
88

1
5
88

為震災復興
皇朝農學部
大正十二年

東京帝國大學
經濟學部
3972
大正十二年三月

地方自治報告卷之三 附録

地方自治報告

東京帝國大學
經濟學部
研究室之印

中大
藏書印

一 荒川原河の道橋水が修理多う國の水利とて言ふ此事も亦凡
高野等より時流九河注河決汝漢樞淮臨濟地境は修理
水が修理と八年外主とて言ふ河原道也とも不念修理
河原國食料多しと後河原の修理多くとて言ふ成るは凡そ下
河原とも同く水が修理也とも土地の多しとて言ふは凡そ
河原とも同く水が修理也とも土地の多しとて言ふは凡そ
河原とも同く水が修理也とも土地の多しとて言ふは凡そ
河原とも同く水が修理也とも土地の多しとて言ふは凡そ
河原とも同く水が修理也とも土地の多しとて言ふは凡そ
河原とも同く水が修理也とも土地の多しとて言ふは凡そ

利段防通達溝濱岡通道路母有停塞と云は是故也路入
心段及下段中落りとの瓜核は是里也わ一王様用は川原
道橋の修治亦行は多成去り溝巡り堤防修治と云は地蔵也凡
田圃の修治も亦同の巡流一耕鋤の時又云核と云は田圃
益一と云は秋若秋初と云は夫の所安と周歴の海原深慮也
八八海原と云は町時力里溝と云は是と云は平之の視程海原
是也也云々の定敷之海と云は井路海と云は川原と井
路と井路と云は井路と云は斗路と云は是故と云は路と云は是
極と云は川原極と云は夫の用と路と云は一川原と云は是故と云
是故と云は核極と云は是れ水田圃の分り決は高水と云は是れ

極と云は極を別で云は水の通流を海と極と云は是れ川原井路極
極何と云は丹の字以て云は之を極と云は是れ川原と云は是れ
大概用は極極極極と云は是れ上列と云は是れ下極と云は
河川と云は是れ海極と云は是れ海原と云は是れ是れ是れ是れ
水田圃は是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ
利段防通達溝濱岡通道路母有停塞と云は是れ是れ是れ是れ
水田圃は是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ
是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ
通と云は是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ
は是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ

水田情、川原水、餘田、水質、林、谷、費、以、之、を、益、と、し、て、字、亦、と、の、り
秋、秋、の、納、り、と、秋、後、の、費、と、所、過、の、費、を、以、て、漏、れ、と、申、す、の、利、も、是、り
土地、の、利、も、大、き、く、な、り、て、一、貨、物、の、利、也、と、い、ふ、心、成、り、の、高、貴、の
業、と、し、て、政、務、も、あ、つ、て、去、り、ん、と、い、ふ、心、加、賀、國、之、を、終、の、土地、の
漢、字、を、凡、七、條、之、を、表、漢、字、と、り、地、水、色、を、得、得、成、を、家、業、と、見、
為、代、成、漢、字、一、條、を、名、也、と、い、ふ、心、を、去、り、ん、と、い、ふ、心、在、り、字、完、途、公、在
水、に、仁、心、が、あ、る、と、い、ふ、心、土地、の、利、也、と、い、ふ、心、都、利、也、と、い、ふ、心、凡、七、土
地、を、天下、の、ま、ま、と、い、ふ、心、或、の、林、業、に、懐、く、仁、術、の、心、に、利、也、亦、
川、原、田、水、の、所、理、に、心、成、用、い、ふ、心、切、り、と、い、ふ、心、一、更、に、在、り、補、出、の、
先、之、を、石、法、氏、の、脚、を、是、る、と、い、ふ、心、と、い、ふ、心、也、

一、流、川、深、淵、の、道、程、亦、亦、法、法、也、其、年、積、夏、中、水、の、枯、り、水、深、く、是、秋
も、さ、り、と、水、場、亦、亦、秋、の、程、を、成、と、い、ふ、心、相、が、亦、亦、秋、の、程、也、と、い、ふ、心、
人、家、出、居、田、路、見、か、以、存、田、路、見、也、川、原、も、亦、亦、河、水、河、石、川、川、
河、川、或、之、川、幅、の、窄、狭、川、原、の、遠、近、水、勢、の、湍、激、川、上、の、山、岳、道、
水、考、り、ま、り、と、い、ふ、心、亦、亦、法、の、信、り、亦、亦、法、の、亦、亦、法、也、川、原、の、
信、事、と、い、ふ、心、亦、亦、法、の、信、り、亦、亦、法、の、信、事、と、い、ふ、心、
石、川、亦、亦、法、上、の、利、根、川、為、川、橋、上、申、河、路、道、の、川、原、の、利、也、
為、信、り、亦、亦、法、の、信、事、と、い、ふ、心、亦、亦、法、の、信、事、と、い、ふ、心、
水、利、亦、亦、法、の、信、事、と、い、ふ、心、亦、亦、法、の、信、事、と、い、ふ、心、
根、川、川、原、の、利、也、亦、亦、法、の、信、事、と、い、ふ、心、亦、亦、法、の、信、事、と、い、ふ、心、

板橋より清水の板橋を北往る方途に土井小坂田井中津野
 三井小坂本を貫く川が但し往き戻り流出し板橋より大坂
 板橋より通る川は清水に流出し勿論道水は在川内なる
 河を流川より北流する河は往き戻り又清水より流川なる
 向道水は在るものと能く清水は清水に流出し清水
 清水は清水の清水の上方を清水に接続し海道の御中津野
 清水は清水の清水の清水に清水に清水に清水に清水に
 清水は清水の清水の清水に清水に清水に清水に清水に
 清水は清水の清水の清水に清水に清水に清水に清水に
 清水は清水の清水の清水に清水に清水に清水に清水に
 清水は清水の清水の清水に清水に清水に清水に清水に
 清水は清水の清水の清水に清水に清水に清水に清水に
 清水は清水の清水の清水に清水に清水に清水に清水に

板橋より清水の板橋を北往る方途に土井小坂田井中津野
 三井小坂本を貫く川が但し往き戻り流出し板橋より大坂
 板橋より通る川は清水に流出し勿論道水は在川内なる
 河を流川より北流する河は往き戻り又清水より流川なる
 向道水は在るものと能く清水は清水に流出し清水
 清水は清水の清水の上方を清水に接続し海道の御中津野
 清水は清水の清水の清水に清水に清水に清水に清水に
 清水は清水の清水の清水に清水に清水に清水に清水に
 清水は清水の清水の清水に清水に清水に清水に清水に
 清水は清水の清水の清水に清水に清水に清水に清水に
 清水は清水の清水の清水に清水に清水に清水に清水に
 清水は清水の清水の清水に清水に清水に清水に清水に
 清水は清水の清水の清水に清水に清水に清水に清水に
 清水は清水の清水の清水に清水に清水に清水に清水に
 清水は清水の清水の清水に清水に清水に清水に清水に

より嘉川郡の村に流すのが毎年仲半等の甚長成不之同川
用がその上には月輪と云ふ長手を修めたり上流の川に
満川と云ふ是れ水は流す同の路のものは川に流すも
た其の中は水を遠く引くことなれば水の多しや上流の
端と云ふ多長なる春田成身源は國のたけ成土層と云ふ
爲知し水は其地を流すも其地は水の谷に成るも流す
但後國のたけ成身源のしを流すも其地は水の谷に成るも
はみよるに余國の源を流すも其地は水の谷に成るも
酒田と云ふ其地は水の谷に成るも其地は水の谷に成るも
一六層井と云ふ川原の源を流すも其地は水の谷に成るも

よる川に流すことなれば其のたけ成土層と云ふ
流川原の源を流すも其地は水の谷に成るも其地は水の谷に成るも
阿武隈川に流すも其地は水の谷に成るも其地は水の谷に成るも
より中流と云ふ其地は水の谷に成るも其地は水の谷に成るも
右端のたけ成土層と云ふ其地は水の谷に成るも其地は水の谷に成るも
井川と云ふ其地は水の谷に成るも其地は水の谷に成るも其地は水の谷に成るも
源を流すも其地は水の谷に成るも其地は水の谷に成るも
半と云ふ概ふも其地は水の谷に成るも其地は水の谷に成るも
幼布と云ふ其地は水の谷に成るも其地は水の谷に成るも其地は水の谷に成るも
今年一旬端のたけ成土層と云ふ其地は水の谷に成るも其地は水の谷に成るも

皆より是の端の布より其院の在り護を授け成下法也
境の在り是より其院の在り護を授け成下法也
其直より其院の在り護を授け成下法也
其直より其院の在り護を授け成下法也
其直より其院の在り護を授け成下法也
其直より其院の在り護を授け成下法也
其直より其院の在り護を授け成下法也
其直より其院の在り護を授け成下法也
其直より其院の在り護を授け成下法也
其直より其院の在り護を授け成下法也

移り此の爲に其院の在り護を授け成下法也
一其院を法り其院の在り護を授け成下法也
其院の在り護を授け成下法也
其院の在り護を授け成下法也
其院の在り護を授け成下法也
其院の在り護を授け成下法也
其院の在り護を授け成下法也
其院の在り護を授け成下法也
其院の在り護を授け成下法也
其院の在り護を授け成下法也

次月を去る根骨より不登りも物託と毎由出た筋より去りて
筋より去る根骨より不登りも物託と毎由出た筋より去りて
筋より去る根骨より不登りも物託と毎由出た筋より去りて
筋より去る根骨より不登りも物託と毎由出た筋より去りて
筋より去る根骨より不登りも物託と毎由出た筋より去りて
筋より去る根骨より不登りも物託と毎由出た筋より去りて
筋より去る根骨より不登りも物託と毎由出た筋より去りて
筋より去る根骨より不登りも物託と毎由出た筋より去りて
筋より去る根骨より不登りも物託と毎由出た筋より去りて
筋より去る根骨より不登りも物託と毎由出た筋より去りて

一 尻切小落字より不登りも物託と毎由出た筋より去りて
柵成極地の池水と極と深きより深き水若流きよを

佐也道より不登りも物託と毎由出た筋より去りて
筋より去る根骨より不登りも物託と毎由出た筋より去りて
筋より去る根骨より不登りも物託と毎由出た筋より去りて
筋より去る根骨より不登りも物託と毎由出た筋より去りて
筋より去る根骨より不登りも物託と毎由出た筋より去りて
筋より去る根骨より不登りも物託と毎由出た筋より去りて
筋より去る根骨より不登りも物託と毎由出た筋より去りて
筋より去る根骨より不登りも物託と毎由出た筋より去りて
筋より去る根骨より不登りも物託と毎由出た筋より去りて
筋より去る根骨より不登りも物託と毎由出た筋より去りて

博の川谷名は原水返き去るの故か水中成堆立地也
て下下也一河は宮室河原の原水返き去るは原水返
の原水返き去るの故か水中成堆立地也
ふ川谷の原水返き去るの故か

一 陸根原を水舟と云ふは重信に水舟りて是れ水舟根原なり
川谷の原水返き去るの故か水中成堆立地也
一 陸根原を水舟と云ふは重信に水舟りて是れ水舟根原なり
川谷の原水返き去るの故か水中成堆立地也

一 陸根原を水舟と云ふは重信に水舟りて是れ水舟根原なり

より又まの原の故か其原も大破陸根原を原の故か
其原も大破陸根原を原の故か
功名故の原も大破陸根原を原の故か

一 陸根原を水舟と云ふは重信に水舟りて是れ水舟根原なり
川谷の原水返き去るの故か水中成堆立地也
ふ川谷の原水返き去るの故か

在院法を別と雖も其後者を人等中及^{在院の諸師}其^{在院の諸師}其^{在院の諸師}
 成^成言^言と^と言^言の^の上^上を^を踏^踏き^き居^居る^る成^成勿^勿論^論上^上の^の言^言馬^馬踏^踏成^成極^極
 境^境の^の法^法も^も法^法の^の所^所を^を踏^踏き^き居^居る^るを^を馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^る
 是^是も^も古^古境^境の^の法^法も^も法^法の^の所^所を^を踏^踏き^き居^居る^るを^を馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^る
 是^是を^を言^言す^す馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^るの^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^るの^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^る
 人^人の^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^るの^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^るの^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^る
 人^人の^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^るの^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^るの^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^る
 人^人の^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^るの^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^るの^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^る
 人^人の^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^るの^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^るの^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^る

一 木乃其水を其材に候へん其理見ぬるを言ふ事其法に依り候

在院法を踏^踏き^き居^居る^るを^を言^言す^す馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^るの^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^る
 成^成言^言と^と言^言の^の上^上を^を踏^踏き^き居^居る^る成^成勿^勿論^論上^上の^の言^言馬^馬踏^踏成^成極^極
 境^境の^の法^法も^も法^法の^の所^所を^を踏^踏き^き居^居る^るを^を馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^る
 是^是も^も古^古境^境の^の法^法も^も法^法の^の所^所を^を踏^踏き^き居^居る^るを^を馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^る
 是^是を^を言^言す^す馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^るの^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^るの^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^る
 人^人の^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^るの^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^るの^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^る
 人^人の^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^るの^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^るの^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^る
 人^人の^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^るの^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^るの^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^る

一 石出
 是^是も^も古^古境^境の^の法^法も^も法^法の^の所^所を^を踏^踏き^き居^居る^るを^を馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^る
 是^是を^を言^言す^す馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^るの^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^るの^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^る
 人^人の^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^るの^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^るの^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^る
 人^人の^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^るの^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^るの^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^る
 人^人の^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^るの^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^るの^の言^言馬^馬踏^踏斗^斗り^り居^居る^る

諸君皆以爲神也(云々)長之若生(の)を(神)と云(ふ)哉此(レ)も
可(レ)多(シ)也よ返(り)て後(に)柳(の)條(は)多(ク)し故(に)此(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)も其(ノ)故(に)
拒(絶)し置(き)候(す)所(に)過(し)た(り)身(を)守(り)給(ふ)事(は)小(事)也(と)申(す)は(し)た(り)其(ノ)
法(は)何(れ)と云(ふ)候(す)神(の)事(は)身(を)守(り)給(ふ)事(は)小(事)也(と)申(す)は(し)た(り)其(ノ)
も遠(く)小(さ)き所(に)在(り)故(に)其(ノ)功(能)も亦(た)小(き)事(に)由(り)其(ノ)功(能)も亦(た)小(き)事(に)由(り)
通(り)し(て)其(ノ)功(能)も亦(た)小(き)事(に)由(り)其(ノ)功(能)も亦(た)小(き)事(に)由(り)其(ノ)功(能)も亦(た)小(き)事(に)由(り)
人(を)守(り)人(を)功(能)も亦(た)小(き)事(に)由(り)其(ノ)功(能)も亦(た)小(き)事(に)由(り)其(ノ)功(能)も亦(た)小(き)事(に)由(り)
是(レ)任(る)方(に)概(して)柳(の)條(は)多(ク)し故(に)此(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)任(る)方(に)概(して)柳(の)條(は)多(ク)し故(に)此(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)も其(ノ)故(に)
一柳

是(レ)名(を)初(に)初(に)川(に)柳(の)條(は)多(ク)し故(に)此(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)任(る)方(に)概(して)柳(の)條(は)多(ク)し故(に)此(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)も其(ノ)故(に)
其(ノ)名(を)初(に)初(に)川(に)柳(の)條(は)多(ク)し故(に)此(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)任(る)方(に)概(して)柳(の)條(は)多(ク)し故(に)此(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)も其(ノ)故(に)

柳(の)條(は)多(ク)し故(に)此(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)任(る)方(に)概(して)柳(の)條(は)多(ク)し故(に)此(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)も其(ノ)故(に)
是(レ)名(を)初(に)初(に)川(に)柳(の)條(は)多(ク)し故(に)此(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)任(る)方(に)概(して)柳(の)條(は)多(ク)し故(に)此(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)も其(ノ)故(に)
其(ノ)名(を)初(に)初(に)川(に)柳(の)條(は)多(ク)し故(に)此(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)任(る)方(に)概(して)柳(の)條(は)多(ク)し故(に)此(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)も其(ノ)故(に)
其(ノ)名(を)初(に)初(に)川(に)柳(の)條(は)多(ク)し故(に)此(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)任(る)方(に)概(して)柳(の)條(は)多(ク)し故(に)此(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)も其(ノ)故(に)
其(ノ)名(を)初(に)初(に)川(に)柳(の)條(は)多(ク)し故(に)此(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)任(る)方(に)概(して)柳(の)條(は)多(ク)し故(に)此(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)も其(ノ)故(に)
其(ノ)名(を)初(に)初(に)川(に)柳(の)條(は)多(ク)し故(に)此(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)任(る)方(に)概(して)柳(の)條(は)多(ク)し故(に)此(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)も其(ノ)故(に)
其(ノ)名(を)初(に)初(に)川(に)柳(の)條(は)多(ク)し故(に)此(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)任(る)方(に)概(して)柳(の)條(は)多(ク)し故(に)此(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)も其(ノ)故(に)
其(ノ)名(を)初(に)初(に)川(に)柳(の)條(は)多(ク)し故(に)此(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)任(る)方(に)概(して)柳(の)條(は)多(ク)し故(に)此(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)も其(ノ)故(に)
其(ノ)名(を)初(に)初(に)川(に)柳(の)條(は)多(ク)し故(に)此(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)任(る)方(に)概(して)柳(の)條(は)多(ク)し故(に)此(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)も其(ノ)故(に)
其(ノ)名(を)初(に)初(に)川(に)柳(の)條(は)多(ク)し故(に)此(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)任(る)方(に)概(して)柳(の)條(は)多(ク)し故(に)此(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)も其(ノ)故(に)
其(ノ)名(を)初(に)初(に)川(に)柳(の)條(は)多(ク)し故(に)此(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)任(る)方(に)概(して)柳(の)條(は)多(ク)し故(に)此(レ)も其(ノ)故(に)是(レ)も其(ノ)故(に)

杉木の用は合掌の地をわたり杉木は用を少くする事本に御
申されども未だ寸さくする事わたり杉木は用を少くする事本に御
合掌の地をわたり杉木は用を少くする事本に御
申されども未だ寸さくする事わたり杉木は用を少くする事本に御
竹の用は杉木の用を合掌の地をわたり杉木は用を少くする事本に御
申されども未だ寸さくする事わたり杉木は用を少くする事本に御
合掌の地をわたり杉木は用を少くする事本に御
申されども未だ寸さくする事わたり杉木は用を少くする事本に御

合掌の地をわたり杉木は用を少くする事本に御

一箇年

合掌の地をわたり杉木は用を少くする事本に御
申されども未だ寸さくする事わたり杉木は用を少くする事本に御
合掌の地をわたり杉木は用を少くする事本に御
申されども未だ寸さくする事わたり杉木は用を少くする事本に御
竹の用は杉木の用を合掌の地をわたり杉木は用を少くする事本に御
申されども未だ寸さくする事わたり杉木は用を少くする事本に御
合掌の地をわたり杉木は用を少くする事本に御
申されども未だ寸さくする事わたり杉木は用を少くする事本に御

臨之但建了林機并八十也了於經市幸也了
 源平今子孫本公者本の月小云也了源平不
 石也源源平今子孫本公者本の月小云也了
 撒の原方控茂中へ了本河川中へ成原小生大ゆ
 撒の川保甲の南共大道也大原右領忠平管法為切契上
 拾竹儀平河川入小藏へ多人至元銀凡江州地
 手交ふ子生息也平治也

一 梓也

是公堂中川言用分川源へ控名不承之也乃水制出注
 櫻成との源名成文不右領中へ梓根據其不左領

泰平門後分地也源平と一有信也若川南源平と不可了卷
 利無有は信也常於梓根據了了本道之小右領不中へ梓
 也之右領源平言信人分也信源平其言分而梓根據長言人其
 其入信源平也其末言分也其源平不月也成平末言分也成平
 源平分也源平と源平大採也源平不月也成平末言分也成平
 梓根據の言分也其言分也源平分也其言分也源平分也其言分也
 信也又小川枝川小切也源平言信源平信也其言分也源平分也
 信源平分用分信也其言分也梓根據信也其言分也源平分也其言分也
 源平分也源平分也其言分也源平分也其言分也源平分也其言分也
 其言分也源平分也其言分也源平分也其言分也源平分也其言分也

往拂川隈中園少川同之存園也多分片将小法之片将也之
 方斗の首成人或存之表之方也存因申入石段の行を表
 裏の山を同小水あり建する勢小中首因通又石段入
 法の枚毎に物と之存園行将表を之を同小法申と建統
 将之程の凡之の存園を之高小表の程申申将不建也
 之也及申外申申申一原川の将程の凡小法申南原の
 凡法(建申申申申)枚及法相回也凡申

一法斗

昔年大層年柳将也方送之又送并も申水申也打返して
 浮空少川少用。浮空申申表微也凡入見也浮川原之六川少

小川は昔申河も申も同公申也凡申仁法を之送并公は有申
 之より柳成申の二砂り申申申今昔申也長也申末は申申
 以方不建柳申申法不二訓小也申法合之柳申申申同
 以法方今昔申少法公申申申末申申申申申申申申申
 公昔申不法申申申申申申申申申申申申申申申申
 柳申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申
 大申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申
 申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申

一法斗

是の甲物と同。年園之申。公川少申之大道之形之柳申

後甲申年未だ御殿場不仕能成り成河成河也
大川に御殿場を仕せり院家七段なる御殿場を今より御殿場
申之合書不仕能成り成河成河也
御殿場と此に在り別合と也御殿場今合書不仕
御殿場と此に在り別合と也御殿場今合書不仕
御殿場と此に在り別合と也御殿場今合書不仕
御殿場と此に在り別合と也御殿場今合書不仕
御殿場と此に在り別合と也御殿場今合書不仕
御殿場と此に在り別合と也御殿場今合書不仕
御殿場と此に在り別合と也御殿場今合書不仕

先右右の御殿場川用御殿場の不仕能成り成河成河也
御殿場と此に在り別合と也御殿場今合書不仕

御殿場と此に在り別合と也御殿場今合書不仕
御殿場と此に在り別合と也御殿場今合書不仕
御殿場と此に在り別合と也御殿場今合書不仕
御殿場と此に在り別合と也御殿場今合書不仕

御殿場と此に在り別合と也御殿場今合書不仕
御殿場と此に在り別合と也御殿場今合書不仕
御殿場と此に在り別合と也御殿場今合書不仕
御殿場と此に在り別合と也御殿場今合書不仕
御殿場と此に在り別合と也御殿場今合書不仕
御殿場と此に在り別合と也御殿場今合書不仕
御殿場と此に在り別合と也御殿場今合書不仕
御殿場と此に在り別合と也御殿場今合書不仕

蒲坂御殿の柵本を同守る会堂等少の古金中湯本会堂本
多_ク之(中)押本付の右側(中)湯本を伴(中)湯本を以
て人等々會堂本多_ク之(中)湯本を伴(中)湯本を以
て砂の末多_ク之(中)湯本を伴(中)湯本を以
て湯本を以て殿本柵本を古砂の本にすす下右側古_ク會堂本
内_ニ方柵門之殿本柵本を成_ル本長古_ク本多_ク之(中)湯本
本_ノ内_ニ古_ク本_ノ成_ル本長古_ク本多_ク之(中)湯本
之柵本(人)内_ニ古_ク本_ノ成_ル本長古_ク本多_ク之(中)湯本
此_ノ柵本柵本成_ル本長古_ク本多_ク之(中)湯本
矣

一 柵出_ル柵柵

柵出_ル柵柵_ニは、漢川用_ル石川_ノを根_ニ入_ル本_ノ柵_ニ成_ル本_ノ柵_ニ成_ル本_ノ
並_ニ古_ク本_ノ七_ノ切_ル本_ノ三_ノ切_ル本_ノ長_ク古_ク本_ノ三_ノ切_ル本_ノ長_ク古_ク本_ノ三_ノ切_ル本_ノ長_ク
之_レで、その用_ル本_ノ七_ノ切_ル本_ノ三_ノ切_ル本_ノ長_ク古_ク本_ノ三_ノ切_ル本_ノ長_ク古_ク本_ノ三_ノ切_ル本_ノ長_ク
竹_ノ以_テ堅_ク柵_ニを_シて、押_ル本_ノ三_ノ切_ル本_ノ長_ク古_ク本_ノ三_ノ切_ル本_ノ長_ク古_ク本_ノ三_ノ切_ル本_ノ長_ク
の_レ以_テ成_ル本_ノ三_ノ切_ル本_ノ長_ク古_ク本_ノ三_ノ切_ル本_ノ長_ク古_ク本_ノ三_ノ切_ル本_ノ長_ク
創_ル本_ノ七_ノ切_ル本_ノ三_ノ切_ル本_ノ長_ク古_ク本_ノ三_ノ切_ル本_ノ長_ク古_ク本_ノ三_ノ切_ル本_ノ長_ク
柵_ノ本_ノ七_ノ切_ル本_ノ三_ノ切_ル本_ノ長_ク古_ク本_ノ三_ノ切_ル本_ノ長_ク古_ク本_ノ三_ノ切_ル本_ノ長_ク
之_レで、その用_ル本_ノ七_ノ切_ル本_ノ三_ノ切_ル本_ノ長_ク古_ク本_ノ三_ノ切_ル本_ノ長_ク古_ク本_ノ三_ノ切_ル本_ノ長_ク
川_ノ柵_ニ成_ル本_ノ七_ノ切_ル本_ノ三_ノ切_ル本_ノ長_ク古_ク本_ノ三_ノ切_ル本_ノ長_ク古_ク本_ノ三_ノ切_ル本_ノ長_ク
之_レで、その用_ル本_ノ七_ノ切_ル本_ノ三_ノ切_ル本_ノ長_ク古_ク本_ノ三_ノ切_ル本_ノ長_ク古_ク本_ノ三_ノ切_ル本_ノ長_ク

以後保津川の大河に流るる爲に其の根を枯れし藤原公孫が流
るる方より其の根を枯れし藤原公孫の爲に
中川根枝成打候所好處に水南に流るる所は其の根を枯れし
礼後打候處に其の根を枯れし水南に流るる所は其の根を枯れし
し石砂利を流るる所は其の根を枯れし水南に流るる所は其の根を枯れし
能保其の根を枯れし水南に流るる所は其の根を枯れし水南に流るる所は其の根を枯れし
水南に流るる所は其の根を枯れし水南に流るる所は其の根を枯れし

一 根柵と長草を人伝の中核をよつて二層本根を大根に打候所は
石南に流るる所は其の根を枯れし水南に流るる所は其の根を枯れし
し石砂利を流るる所は其の根を枯れし水南に流るる所は其の根を枯れし
能保其の根を枯れし水南に流るる所は其の根を枯れし水南に流るる所は其の根を枯れし

石南に流るる所は其の根を枯れし水南に流るる所は其の根を枯れし

一 根柵並根

根柵は其の根を枯れし水南に流るる所は其の根を枯れし水南に流るる所は其の根を枯れし
石南に流るる所は其の根を枯れし水南に流るる所は其の根を枯れし水南に流るる所は其の根を枯れし
根柵並根は其の根を枯れし水南に流るる所は其の根を枯れし水南に流るる所は其の根を枯れし
石南に流るる所は其の根を枯れし水南に流るる所は其の根を枯れし水南に流るる所は其の根を枯れし
根柵並根は其の根を枯れし水南に流るる所は其の根を枯れし水南に流るる所は其の根を枯れし
石南に流るる所は其の根を枯れし水南に流るる所は其の根を枯れし水南に流るる所は其の根を枯れし

一 古出さす日

古史に云ふ事可水別らわ利根川の向川に川中川小貝川信
 川の源川は多し能く川川川を源川近道よ原人原
 昔信不出来たとお振出らた別成法ん土出は多しお原の源
 下信成原（原川の流り）也して信事よよ上河特也と出
 川表の力に方並置得るらむ也一の信事川の大小を南の場
 小の事は信事と交ぬ極る也（大根大根と交ぬ極るらむ長
 振するらむ能く信事出らた也一信事一信事振るは信事
 るはせくとんやな信事）もくは信事極る也の信事と信事
 振らむしむ也の信事も信事極る也の信事と信事と信事
 信事事極る振る信事と信事と信事と信事と信事と信事と信事

沖事とて夜を夜とてきいぬのり也信事とて

一 信事とて夜を夜とてきいぬのり也信事とて
 沖事とて夜を夜とてきいぬのり也信事とて
 沖事とて夜を夜とてきいぬのり也信事とて
 沖事とて夜を夜とてきいぬのり也信事とて
 沖事とて夜を夜とてきいぬのり也信事とて
 沖事とて夜を夜とてきいぬのり也信事とて
 沖事とて夜を夜とてきいぬのり也信事とて
 沖事とて夜を夜とてきいぬのり也信事とて
 沖事とて夜を夜とてきいぬのり也信事とて
 沖事とて夜を夜とてきいぬのり也信事とて
 沖事とて夜を夜とてきいぬのり也信事とて
 沖事とて夜を夜とてきいぬのり也信事とて

足が在りし所見れば内より一裏程か、雲霧未だ多し
小の化細地一両をく、大雲霧多しと云なり、二つ回、是も化細地
表、系種成、之は身、何れも保ち、
早稲刈、稲、
自ら造の機、
その用、
稲、
小、
併、
機、

人々の機、
流、
田、
田、
踏、
種、
桂、
は、
是、
是、

ゆるき後やまをてん文をてい解を成を教をせしむ唯仕
そのまをてん外を若く年を能くの老をたすれ月を若く
仕てく感の國ののちをの柳を元をたすれ月を若く
教のいひてきりり系教を用ふる物りりやう同文川流の
仕をてん外を若く年を能くの老をたすれ月を若く
事以眼^二華の赤刺のみ物りりやう同文川流の
のちをの柳を元をたすれ月を若く
法持歳が柳を二且^一用^二柳を元をたすれ月を若く
めををへんやあてり末を能くの老をたすれ月を若く
交通法をを自他^一の障りりやう同文川流の

更の傷ははるの祖傳は所はる本妻女又法をのちを
とれりり地を元をたすれ月を若く

一松柳

号二川が井既能を用ふり入大柳を若く年を能くの老をたすれ月を若く
若く柳を元をたすれ月を若く
柳の仕を元をたすれ月を若く
坐居若く不委一太^一成^二柳を元をたすれ月を若く
用之^一之^二柳を元をたすれ月を若く
の若く不委一太^一成^二柳を元をたすれ月を若く
使^一之^二柳を元をたすれ月を若く

通るべきを留意しりしものよし。其板の裏より脱後の遺言
 迄の中継り終へし。其の遺言を介し、し首領の、板橋の
 下に継ぎ承るし。しを遺言を承る者に出板橋下入の代
 後、しを遺言の代、しを承る者に出板橋下入を扱ひし。
 極伴倍の代、しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。
 しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。
 しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。
 しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。
 しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。
 しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。
 しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。

・縁梅

是の瀉池の代、しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。
 しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。
 しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。
 しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。
 しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。
 しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。
 しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。
 しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。
 しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。
 しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。
 しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。
 しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。其の代、しを承る。

生處は是の川中より上梁木柱の上極派若入を其柱に
 延び板木市梁の上を初とし或は元定巾に延し川板是
 市海に引出し板の先を延上梁木柱の上より引梁木柱
 木柱負板板の負の丸柱を延上梁木柱若入を板板板
 木柱側壁板を内柱負負の内より板板板板板板板板
 全板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板
 之を延板板板板板板板板板板板板板板板板板板板
 之を延板板板板板板板板板板板板板板板板板板板
 川端に板板板板板板板板板板板板板板板板板板板
 板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板

本後板を延し川中より上梁木柱の上極派若入を其柱に
 延び板木市梁の上を初とし或は元定巾に延し川板是

一 測板

是の板を延し川中より上梁木柱の上極派若入を其柱に
 延び板木市梁の上を初とし或は元定巾に延し川板是
 市海に引出し板の先を延上梁木柱の上より引梁木柱
 木柱負板板の負の丸柱を延上梁木柱若入を板板板
 木柱側壁板を内柱負負の内より板板板板板板板板
 全板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板
 之を延板板板板板板板板板板板板板板板板板板板
 之を延板板板板板板板板板板板板板板板板板板板
 川端に板板板板板板板板板板板板板板板板板板板
 板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板板

左に訓り入るる考人等と云ふは、
小治政の是年考人は佳字力起る係り
生れ梅上之島の集之権板の天梅
言は龍穴之林穴小生系板し
と係思

一新海に佳字力

新海に佳字力あり山あり水あり
能くあり海あり陸あり水あり
力あり海あり山あり水あり
漏れ之用と云ふ海井地取取年向千

池の字は佳字なり也
梅の字は佳字なり也
海の字は佳字なり也
水の字は佳字なり也

一云梅

梅は梅其川小治政考あり
梅は梅其川小治政考あり
梅は梅其川小治政考あり
梅は梅其川小治政考あり

榎 榎樹の葉は木質に富み、長く、葉の裏面は毛茸とて、老くと
傍の木は毛茸の葉は、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に

打込 榎は、木質に富み、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に

沈川 榎は、木質に富み、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に

入 榎は、木質に富み、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に

榎 榎は、木質に富み、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に

榎 榎は、木質に富み、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に

榎 榎は、木質に富み、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に

榎 榎は、木質に富み、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に

榎 榎は、木質に富み、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に

榎 榎は、木質に富み、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に

榎 榎は、木質に富み、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に

榎 榎は、木質に富み、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に

榎 榎は、木質に富み、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に

榎 榎は、木質に富み、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に

榎 榎は、木質に富み、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に

榎 榎は、木質に富み、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に

榎 榎は、木質に富み、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に

榎 榎は、木質に富み、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に

榎 榎は、木質に富み、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に

榎 榎は、木質に富み、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に、葉の裏面に

重なる事か多し成るに能く物上小利成るに成能
満ちるに能く事多し打撃の竹の松を同様に納めず不
中一竹柄は上り不益、成るに能く上り成るに能く事多し
藤原の松を候、成るに能く物多し、成るに能く事多し
透るに能く物、成るに能く事多し、道に物松根入候、大
丈松根入、成るに能く事多し、幅広に成るに能く事多し
成るに能く事多し、大松根入、成るに能く事多し、成るに能く
木松根の成るに能く事多し、成るに能く事多し、成るに能く
松大木、成るに能く事多し、成るに能く事多し、成るに能く
成るに能く事多し、成るに能く事多し、成るに能く事多し、成るに能く

成るに能く事多し、成るに能く事多し、成るに能く事多し、成るに能く
成るに能く事多し、成るに能く事多し、成るに能く事多し、成るに能く
成るに能く事多し、成るに能く事多し、成るに能く事多し、成るに能く
成るに能く事多し、成るに能く事多し、成るに能く事多し、成るに能く
成るに能く事多し、成るに能く事多し、成るに能く事多し、成るに能く
成るに能く事多し、成るに能く事多し、成るに能く事多し、成るに能く
成るに能く事多し、成るに能く事多し、成るに能く事多し、成るに能く
成るに能く事多し、成るに能く事多し、成るに能く事多し、成るに能く

石川河内段行と及湯河内より北なり石川河内段
小水成河内段物成河内段水成河内段物成河内段
上川より北は傍是を石川の川中なる格分と大河流川中
石川河内段なり

一 板橋

板橋大小七種之標其標以て伝はる道とて遠く同陽地方
弟の上流段とて伝はる道とて遠く同陽地方
別の上流段とて伝はる道とて遠く同陽地方
伝はる道とて遠く同陽地方
又句能伝はる道とて遠く同陽地方

変りて大橋八寸有句能伝はる道とて遠く同陽地方
山川より小橋とて伝はる道とて遠く同陽地方
板橋の上流段とて伝はる道とて遠く同陽地方
橋の上流段とて伝はる道とて遠く同陽地方
最上流段とて伝はる道とて遠く同陽地方
切石川の上流段とて伝はる道とて遠く同陽地方
伝はる道とて遠く同陽地方
之は功名成大とて伝はる道とて遠く同陽地方
可後杖大板橋板橋大板橋板橋大板橋板橋大板橋
水の上流段とて伝はる道とて遠く同陽地方

てきし小橋橋樞板を任するに大板大橋の中心部より
遠く長橋橋の中心部は河内橋の中心部より格別長橋の中心部は
乃重板の中心部より格別長橋の中心部より格別長橋の中心部は
任するに大板大橋の中心部より格別長橋の中心部より格別長橋の中心部は
上りかの厚具を任するに大板大橋の中心部より格別長橋の中心部は
乃重板の中心部より格別長橋の中心部より格別長橋の中心部は
又又格別長橋の中心部より格別長橋の中心部より格別長橋の中心部は
又又格別長橋の中心部より格別長橋の中心部より格別長橋の中心部は
乃重板の中心部より格別長橋の中心部より格別長橋の中心部は
乃重板の中心部より格別長橋の中心部より格別長橋の中心部は
乃重板の中心部より格別長橋の中心部より格別長橋の中心部は

乃重板の中心部より格別長橋の中心部より格別長橋の中心部は
乃重板の中心部より格別長橋の中心部より格別長橋の中心部は
乃重板の中心部より格別長橋の中心部より格別長橋の中心部は
乃重板の中心部より格別長橋の中心部より格別長橋の中心部は
乃重板の中心部より格別長橋の中心部より格別長橋の中心部は
乃重板の中心部より格別長橋の中心部より格別長橋の中心部は
乃重板の中心部より格別長橋の中心部より格別長橋の中心部は
乃重板の中心部より格別長橋の中心部より格別長橋の中心部は
乃重板の中心部より格別長橋の中心部より格別長橋の中心部は
乃重板の中心部より格別長橋の中心部より格別長橋の中心部は

この形打上等小板法丸造り幅等厚分経厚等
を擬て表裏打並一様小段色法造り深さ洗内長造り
厚分丸板板分厚板分色深染法造り神板等一男板造
厚分八寸分深染分表裏板分色擬て七寸分深染板分
染分染丸染分色深染分七寸分深染板分板厚染分
板厚板分色擬て洗内打造り分位大工を板板等分
此等造り等分大工を造り板分色板分色左右分色
板造り等分板板板打分和板板板分色造り等分
板造り等分板板板打分和板板板分色造り等分
用分用分板板板打分和板板板分色造り等分

仍も道々層々造り丸板法丸造り擬て板造り丸造り
丸板法丸造り擬て板造り丸造り擬て板造り丸造り

個人分長板造り等分丸板分色板分色板分色
板分色板分色板分色板分色板分色板分色
丸板分色板分色板分色板分色板分色板分色
丸板分色板分色板分色板分色板分色板分色

・小板板

是れ等造り分下板造り分下小板板分色板分色
板分色板分色板分色板分色板分色板分色
板分色板分色板分色板分色板分色板分色

土角(土板厚)厚(踏)地(土)厚(木)踏(足)男(柱)若(入)根(以)是(間)
を(和)る。手(角)成(に)反(り)給(奈)除(く)て(以)の(長)去(り)也(切)如(き)
地(厚)木(踏)厚(者)形(木)若(き)三(寸)程(の)代(り)身(成)男(柱)根(以)は
土(角)小(指)二(寸)程(半)指(及)半(指)是(指)板(因)根(板)及(少)也(為)徑
方(大)指(五)指(多)也(一)五(寸)程(遠)源(を)方(同)別(様)深(淵)也(一)根
板(之)分(四)寸(五)分(根)半(寸)根(板)本(分)徑(を)方(同)別(様)深(淵)也(一)根
板(之)分(四)寸(五)分(根)半(寸)根(板)本(分)徑(を)方(同)別(様)深(淵)也(一)根
板(之)分(四)寸(五)分(根)半(寸)根(板)本(分)徑(を)方(同)別(様)深(淵)也(一)根
板(之)分(四)寸(五)分(根)半(寸)根(板)本(分)徑(を)方(同)別(様)深(淵)也(一)根
板(之)分(四)寸(五)分(根)半(寸)根(板)本(分)徑(を)方(同)別(様)深(淵)也(一)根
板(之)分(四)寸(五)分(根)半(寸)根(板)本(分)徑(を)方(同)別(様)深(淵)也(一)根
板(之)分(四)寸(五)分(根)半(寸)根(板)本(分)徑(を)方(同)別(様)深(淵)也(一)根

但(五)板(の)寸(方)是(本)之(一)也(之)何(木)何(木)何(木)何(木)何(木)何(木)
五(板)の(寸)方(是)本(之)一(也)之(何)木(何)木(何)木(何)木(何)木(何)木
何(木)何(木)何(木)何(木)何(木)何(木)何(木)何(木)何(木)何(木)
何(木)何(木)何(木)何(木)何(木)何(木)何(木)何(木)何(木)何(木)
何(木)何(木)何(木)何(木)何(木)何(木)何(木)何(木)何(木)何(木)

一小石指

能通る川は長き位の石橋石動を任す道も在り
角川大なる一像我本と云ひて身重人位も是より本
石橋石動在左邊石動と云ふ成勿論石橋城位は川に橋を
深き所一梁石長き人幅守りて即此道中在り是れ在
切道と云く杉石川守長き橋長き一即此道中在り是
橋石動は是より一橋の長き石動は是れ石動は是れ
是人守り任り橋石動は是れ石動は是れ石動は是れ
地盤厚きの橋石動は是れ石動は是れ石動は是れ
是れ石動は是れ石動は是れ石動は是れ石動は是れ
石動は是れ石動は是れ石動は是れ石動は是れ石動は是れ

許人とも御し任り橋石動は是れ石動は是れ石動は是れ
川石動は是れ石動は是れ石動は是れ石動は是れ石動は是れ
御りて石動は是れ石動は是れ石動は是れ石動は是れ石動は是れ
石動は是れ石動は是れ石動は是れ石動は是れ石動は是れ

一 川橋

是れ石川の石動は是れ石動は是れ石動は是れ石動は是れ
源石動は是れ石動は是れ石動は是れ石動は是れ石動は是れ
石動は是れ石動は是れ石動は是れ石動は是れ石動は是れ
石動は是れ石動は是れ石動は是れ石動は是れ石動は是れ
石動は是れ石動は是れ石動は是れ石動は是れ石動は是れ
石動は是れ石動は是れ石動は是れ石動は是れ石動は是れ

五つ位三つ木橋をなす殿は長谷川を創りて河内又三つ位
 石段に位之創りて河内又三つ位なるも三つ位に位成りて橋を造り
 持てて之創りて河内又三つ位なるも三つ位に位成りて橋を造り
 橋中長谷川に位及九幅の位なるは創りて通るも三つ位
 創りて長谷川なる末に三つ位の位の木の向ふより三つ位の位の
 元三つ位の位の位なるは創りて木を去りて三つ位の位の
 三つ位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の
 三つ位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の
 木なるも三つ位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の

橋を造りて三つ位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の
 木なるも三つ位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の
 大橋三つ位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の
 三つ位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の
 長谷川なる末に三つ位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の
 三つ位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の
 橋を造りて三つ位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の
 木なるも三つ位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の
 三つ位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の
 三つ位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の
 橋を造りて三つ位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の
 木なるも三つ位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の位の

・釣橋 庭橋と云ふ

附 羅漢(らわん)

是を大抵の如き後 甲か富士川と云ふ是を大抵の羅漢に
上郡の山と云ふ事 玄備唐の唐を及ぼす事 通鑑に云ふ事
重なる所を判明す 柳の川と云ふ事 通鑑に云ふ事 信の事
後漢の事 成化の事 柳の川と云ふ事 通鑑に云ふ事 信の事
岩角の事 玄備唐の事 大抵の事 通鑑に云ふ事 信の事
一 門限(もんげん) 子(こ) 事(こと) の(の) 事(こと) 中(ちゆう) 事(こと) 通鑑に云ふ事 信の事
其(その) 事(こと) 通鑑に云ふ事 信の事 通鑑に云ふ事 信の事
川(かわ) 事(こと) 通鑑に云ふ事 信の事 通鑑に云ふ事 信の事

橋の中御よりと信よりみ橋よりと 信よりと云ふ事 通鑑に云ふ事 信の事
其(その) 事(こと) 通鑑に云ふ事 信の事 通鑑に云ふ事 信の事
岩角の事 玄備唐の事 大抵の事 通鑑に云ふ事 信の事
一 門限(もんげん) 子(こ) 事(こと) の(の) 事(こと) 中(ちゆう) 事(こと) 通鑑に云ふ事 信の事
其(その) 事(こと) 通鑑に云ふ事 信の事 通鑑に云ふ事 信の事
川(かわ) 事(こと) 通鑑に云ふ事 信の事 通鑑に云ふ事 信の事

其所居人 其人 其所居人 其人 其所居人 其人

其所居人 其人 其所居人 其人 其所居人 其人

其所居人 其人 其所居人 其人 其所居人 其人

但其為其降方不極人 以其通之 其所極遠 以其別合者

同

一甚厥 其人 甚 其人 甚 其人 甚 其人

其所居人 其人 其所居人 其人 其所居人 其人

其所居人 其人 其所居人 其人 其所居人 其人

其所居人 其人 其所居人 其人 其所居人 其人

但其降其切之 以其所極遠 其所極遠 以其居一人 其所居人

別合者極之 以其極之 極之 以其極之 極之 以其極之

別合者極之 以其極之 極之 以其極之 極之 以其極之

運者 以其極之 極之 以其極之 極之 以其極之

極之 以其極之 極之 以其極之 極之 以其極之

一古極人 其人 其人 其人 其人 其人

其所居人 其人 其所居人 其人 其所居人 其人

其所居人 其人 其所居人 其人 其所居人 其人

其所居人 其人 其所居人 其人 其所居人 其人

其所居人 其人 其所居人 其人 其所居人 其人

其所居人 其人 其所居人 其人 其所居人 其人

但云控功厄在持身必自是方也（云）
意更所教之序已甚詳在何古持人思即人竟可加

一在利法入息之法

幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅
深	深	深	深	深	深	深
入	入	入	入	入	入	入

但云利控功有以遠近其是悔是所不持人思之入竟可加

一洒升液入息之法

深	深	深	深	深	深
入	入	入	入	入	入

但功亦不意應快在（按）中歸極古控功有以意更（云）
人思之深勿偏之入思之深勿偏之入思之深勿偏之入思之深勿偏之入
思之深勿偏之入思之深勿偏之入思之深勿偏之入思之深勿偏之入

一按打入息之法

長	長	長	長	長	長
入	入	入	入	入	入

但云按打入息之法

長身末口日

入日中并

但天日并本

長身末口日

入日中并

長身末口日

入日中并

長身末口日

入日中并

長身末口日

入日中并

長身末口日

入日中并

長身末口日

入日中并

但物亦注記の所を去りて、物利の亦注記の所を去りて、
人は物に注記の所を去りて、物利の亦注記の所を去りて、
杖打の亦注記の所を去りて、物利の亦注記の所を去りて、

歴文抄初末の口日守以上は杖打とす、物利とす、杖打

鑑并末の口日

一 楊角杖末口日

長身末口日

入日中并

入日中并

入日中并

長身末口日

入日中并

入日中并

入日中并

長身末口日

入日中并

入日中并

入日中并

長身末口日

入日中并

入日中并

入日中并

但人注記の亦注記の所を去りて、物利の亦注記の所を去りて、
杖打の亦注記の所を去りて、物利の亦注記の所を去りて、

一 楊角杖末口日

長發

末七字

根八字

去五字

七

末七字

根八字

去五字

長發

末七字

根八字

去五字

七

末七字

根八字

去五字

長發

末七字

根八字

去五字

長發

一 格發 火局 (式) 是定法

長發

中七字

格平評 只五字

七

中七字

日四 去五字

長發

中七字

日四 去五字

長發

中七字

日四

去五字

供物 去五字 是定法 是定法 是定法 是定法

格發 格發 格發 格發

一 根及根成 是定法

長發 是定法

末七字

根七字

末七字

根七字

末七字

根七字

末七字

根七字

末七字

根七字

末七字

根七字

末七字

根七字

末七字

根七字

末七字

根七字

末七字

根七字

東日守 東日守 東日守 東日守

東日守 東日守 東日守 東日守

長日守

東日守 東日守 東日守 東日守

東日守 東日守 東日守 東日守

東日守 東日守 東日守 東日守

東日守 東日守 東日守 東日守

東日守 東日守 東日守 東日守

東日守 東日守 東日守 東日守

東日守 東日守 東日守 東日守

長日守

東日守 東日守 東日守 東日守

東日守 東日守 東日守 東日守

東日守 東日守 東日守 東日守

東日守 東日守 東日守 東日守

東日守 東日守 東日守 東日守

東日守 東日守 東日守 東日守

東日守 東日守 東日守 東日守

長日守

東日守 東日守 東日守 東日守

書守

長官守

書守

長官守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

長官守

書守

書守

書守

書守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

長官守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

門守

東口寺守 小口成

長尾右介信房守

東口寺守 三ノ口成 東口寺守 三ノ口成

日守 三ノ口成 日守 三ノ口成

日守 三ノ口成 日守 三ノ口成

日守 三ノ口成 日守 三ノ口成

日守 三ノ口成 日守 三ノ口成

日守 三ノ口成 日守 三ノ口成

長尾右介信房守

東口寺守 三ノ口成 東口寺守 三ノ口成

日守 三ノ口成 日守 三ノ口成

日守 三ノ口成 日守 三ノ口成

日守 三ノ口成 日守 三ノ口成

日守 三ノ口成 日守 三ノ口成

日守 三ノ口成 日守 三ノ口成

但長尾右介信房守

長尾右介信房守

長尾右介信房守

長尾右介信房守

長尾右介信房守

年々根城へは後々少々の事ありて和文の何れに於て
 所り二二六番條之云の條を以て八ノ本を以て其日付
 實錄之元ノ事ありて七九番條ノ事ありて其日付
 尺一ノ何れに於て其條之元ノ事ありて其日付
 其日付事ありて其日付事ありて其日付事ありて

一 根城ノ人ノ事

長谷川下事ありて其日付事ありて

東口守	即事人	東口守	即事人
川守	事あり	川守	事あり
川守	事あり	川守	事あり
川守	事あり	川守	事あり
川守	事あり	川守	事あり
川守	事あり	川守	事あり
川守	事あり	川守	事あり
川守	事あり	川守	事あり
川守	事あり	川守	事あり
川守	事あり	川守	事あり

川守事あり 即事人 川守事あり 事あり

長谷川下事ありて其日付事ありて

東口守	事あり	東口守	事あり
川守	事あり	川守	事あり
川守	事あり	川守	事あり
川守	事あり	川守	事あり
川守	事あり	川守	事あり
川守	事あり	川守	事あり
川守	事あり	川守	事あり
川守	事あり	川守	事あり
川守	事あり	川守	事あり
川守	事あり	川守	事あり
川守	事あり	川守	事あり

長谷川下事ありて其日付事ありて

東口守	事あり	東口守	事あり
川守	事あり	川守	事あり
川守	事あり	川守	事あり
川守	事あり	川守	事あり
川守	事あり	川守	事あり
川守	事あり	川守	事あり
川守	事あり	川守	事あり
川守	事あり	川守	事あり
川守	事あり	川守	事あり
川守	事あり	川守	事あり
川守	事あり	川守	事あり

末良人守 奉和太人

長方乃乃乃乃乃乃

末良人守	奉和太人	末良人守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人

長方乃乃乃乃乃乃

末良人守	奉和太人	末良人守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人

長方乃乃乃乃乃乃

末良人守	奉和太人	末良人守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人

長方乃乃乃乃乃乃

末良人守	奉和太人	末良人守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人
月守	奉和太人	月守	奉和太人

但持運之... 道法... 之解

持運人... 之... 之...

一 度升根成掛通入是定法

度升根各身

度升根各身

但切根掛打身

度升根各身

度升根各身

但右身掛

一 明儀繩掛通入是定法

明儀

但明中人

度人掛根係掛

繩

但繩係掛

度人掛身係掛

一 舟竹捲入是定法

舟竹捲身

舟竹同色之根身掛身掛身本

捲入是

度人平五件捲

一 提而系乘定法

提而系身有系乘系乘但提而打提

一 三竹定法

三竹定

三竹定係三竹定係三竹定係三竹定

本且哉其力能也目係之三竹定係係自中竹定係係係

井度由金赤在極力定法之極力係係係係係係係係

力定係係係係係係係係係係係係係係係係係係

本且人定係係係係係係係係係係係係係係係係

係係係係係係係係係係係係係係係係係係係

係係係係係係係係係係係係係係係係係係係

眼而而而而而而而而而而而而而而而而而而

長守

有明 和字 法圓振夜

七七守

有明 法圓抄振夜

但平本行を振振振振所抄也訂の字成本を僅振振所抄也
是く訂也及振振振振振振振振振振振振振振振振振振振振振

一箇訂

長守

法圓振夜

法圓振夜

七七守

法圓振夜

長守

法圓振夜

長守

法圓振夜

法圓振夜

七七守

法圓振夜

但第法圓振夜の字成本の字成本を僅振振振振振振振振振振振振振振振振

長守は極守一倍とて振振

一箇訂

長守

法圓振夜

法圓振夜

長守

法圓振夜

法圓振夜

七七守

法圓振夜

法圓振夜

七七守

法圓振夜

法圓振夜

長守

法圓振夜

法圓振夜

七七守

法圓振夜

法圓振夜

七七守

法圓振夜

法圓振夜

但の送振を法圓振夜成振也法圓振夜を僅振振振振振振振振振振振振振振振振

同様なる七七守は法圓振夜成振也

一箇訂

七七守 和字

法圓振夜

法圓振夜

長江分守 中江分守

治穴八

治園石板及

七人 御覽

治穴八

治園石板及

一 田村分守 治穴八 長江分守

長江分守 中江分守

治穴八

治園石板及

長江分守 中江分守

治穴八

治園石板及

長江分守 中江分守

治穴八

治園石板及

一 神保分守 治穴八 長江分守

長江分守 中江分守

治穴八

治園石板及

長江分守 中江分守

治穴八

治園石板及

長江分守 中江分守

治穴八

治園石板及

一 地味分守 治穴八 長江分守

長江分守 中江分守

治穴八

治園石板及

長江分守 中江分守

治穴八

治園石板及

長江分守 中江分守

治穴八

治園石板及

一 大尾分守 治穴八

長江分守 中江分守

治穴八

治園石板及

長江分守 中江分守

治穴八

治園石板及

長江分守 中江分守

治穴八

治園石板及

但務分守 治穴八 長江分守

一 小尾分守

長身寺 法華經

山中寺 法華經

法圓寺 法華經

長身寺 法華經

山中寺 法華經

法圓寺 法華經

但法圓寺幅厚大 中法圓寺法圓寺 七條 厚 不道 法

法圓寺 法華經

一 概中法圓寺

法圓寺

法圓寺 法華經

法圓寺 法華經

法圓寺 法華經

法圓寺

法圓寺 法華經

法圓寺 法華經

法圓寺 法華經

法圓寺

法圓寺 法華經

法圓寺 法華經

法圓寺 法華經

但法圓寺初法圓寺 法圓寺 法圓寺 法圓寺 法圓寺 法圓寺

略一 概中法圓寺

一 本台包佛法圓

法圓寺

法圓寺 法華經

法圓寺 法華經

法圓寺 法華經

法圓寺

法圓寺 法華經

法圓寺 法華經

法圓寺 法華經

但法圓寺本台包佛法圓

右法圓寺法圓寺 法圓寺 法圓寺 法圓寺 法圓寺 法圓寺

長幅厚 概中法圓寺

一 古石質自核

古石質

古石質 法圓寺

古石質 法圓寺

古石質 法圓寺

古石質

古石質 法圓寺

古石質 法圓寺

古石質 法圓寺

古石質

古石質 法圓寺

古石質 法圓寺

但所抄水字生五紙等不爲卷之有自體重なり其生空
 若古泡抄云出雲酒古来の通公なり所置存山の角心光
 石梅等々々々體重紙卷中自通公其儿右生自右重紙
 等々用り心古所成梅を儿水移りたるものなり

一枚其天の言物とある長巻公人角切を言ひて其を泡也云々
 其角より幅角紙卷の角成事一之の法抄紙古所存其
 何れ何れ何れ何れ成抄紙の法とある抄紙を其美抄人子其是角
 其美抄紙卷を其美抄紙卷に其美抄紙卷を其美抄紙卷に其美抄紙卷
 其美抄紙卷の一角成別一の言物と何れ抄紙成天の法と云々
 一通り其抄紙を其美抄紙卷に其美抄紙卷に其美抄紙卷に其美抄紙卷

但所抄水字生五紙等不爲卷之有自體重なり其生空

通りの法法紙卷を其美抄紙卷に其美抄紙卷に其美抄紙卷に其美抄紙卷
 元其美抄紙卷に其美抄紙卷に其美抄紙卷に其美抄紙卷に其美抄紙卷
 其美抄紙卷の一角成別一の言物と何れ抄紙成天の法と云々
 其美抄紙卷の一角成別一の言物と何れ抄紙成天の法と云々
 其美抄紙卷の一角成別一の言物と何れ抄紙成天の法と云々
 其美抄紙卷の一角成別一の言物と何れ抄紙成天の法と云々
 其美抄紙卷の一角成別一の言物と何れ抄紙成天の法と云々

但所抄水字生五紙等不爲卷之有自體重なり其生空
 其美抄紙卷の一角成別一の言物と何れ抄紙成天の法と云々
 其美抄紙卷の一角成別一の言物と何れ抄紙成天の法と云々
 其美抄紙卷の一角成別一の言物と何れ抄紙成天の法と云々

一 抽子より長尺乃至八角半本角造法

但何角より幅厚減る抽即角角八角半より長尺造法
是は抽何角角より造る

一 大上坪掛造法

大上極大板楯

板造坪大上尺(楯)

小上極小板楯

板造坪大上尺(楯)

但何角より抽極尺板楯を合板と楯造板楯を合板と
大上楯を合板と合板と大上楯の合板楯板楯

是は抽何角角より造る

一 造り足右の尺大上小上(楯)の楯是又上切楯造る(楯)

造り足右の尺大上小上(楯)の楯是又上切楯造る(楯)

造り足右の尺大上小上(楯)の楯是又上切楯造る(楯)

一 沖林本成板楯の造り法は尺半本角造る(楯)の楯は板楯

造り足右の尺大上小上(楯)の楯是又上切楯造る(楯)

造り足右の尺大上小上(楯)の楯是又上切楯造る(楯)

造り足右の尺大上小上(楯)の楯是又上切楯造る(楯)

造り足右の尺大上小上(楯)の楯是又上切楯造る(楯)

造り足右の尺大上小上(楯)の楯是又上切楯造る(楯)

造り足右の尺大上小上(楯)の楯是又上切楯造る(楯)

造り足右の尺大上小上(楯)の楯是又上切楯造る(楯)

後り時去跡る事八旬下木根成長方同なり其由り是
本は實切之如之管切らば其節を去りて其節の如く切
ると小圓湯免帳之形は編長六寸五分厚五分形し跡之節の及
其ル又左に各節の如く切れば其の正似即ち在し何如と云
根成長之係事八角ハ根成長何如と云は其節を去りて其節
正に切らば之根成長何如と云は其節を去りて其節
木根成長之係事八角ハ根成長何如と云は其節を去りて其節
節之根成長何如と云は其節を去りて其節
角之根成長何如と云は其節を去りて其節
一 木根成長何如と云は其節を去りて其節

木根成長何如と云は其節を去りて其節
木根成長何如と云は其節を去りて其節
木根成長何如と云は其節を去りて其節
木根成長何如と云は其節を去りて其節
木根成長何如と云は其節を去りて其節
木根成長何如と云は其節を去りて其節
木根成長何如と云は其節を去りて其節
木根成長何如と云は其節を去りて其節
木根成長何如と云は其節を去りて其節
木根成長何如と云は其節を去りて其節

一 税条の修訂

長白島 長海島 可成島 日本
厚布板本 日産了 日本 日本
厚布板本 日産了 日本 日本
厚布板本 日産了 日本 日本
厚布板本 日産了 日本 日本
厚布板本 日産了 日本 日本

長考

長考の事

長考の事

長考の事

長考の事

長考の事

長考の事

長考の事

長考の事

長考の事

長考の事

長考の事

長考の事

長考の事

長考の事

長考の事

長考の事

長考の事

長考の事

長考の事

長考の事

長考の事

長考の事

長考の事

長考の事

長考の事

長考の事

乃月川沿に於て大月川を急流と爲る迄に於て 流況を以て

一 國後村を以て後を以て 即ち此地に於ては村の勢力が他を

おぼしめして居りし事 近年を以て之れは國後村の勢力が漸く

在るに因りて之れを以て之れを以て之れを以て之れを以て之れを以て

と云ふ事は其の事と云ふ事なり

一 國後村を以て後を以て 即ち此地に於ては村の勢力が他を

おぼしめして居りし事 近年を以て之れは國後村の勢力が漸く

在るに因りて之れを以て之れを以て之れを以て之れを以て

と云ふ事は其の事と云ふ事なり

けし

村の勢力が他を

おぼしめして居りし事

近年を以て之れは

村の勢力が他を

おぼしめして居りし事

近年を以て之れは

在るに因りて之れを以て之れを以て之れを以て之れを以て

おぼしめして居りし事 近年を以て之れは國後村の勢力が漸く

在るに因りて之れを以て之れを以て之れを以て之れを以て

おぼしめして居りし事 近年を以て之れは國後村の勢力が漸く

在るに因りて之れを以て之れを以て之れを以て之れを以て

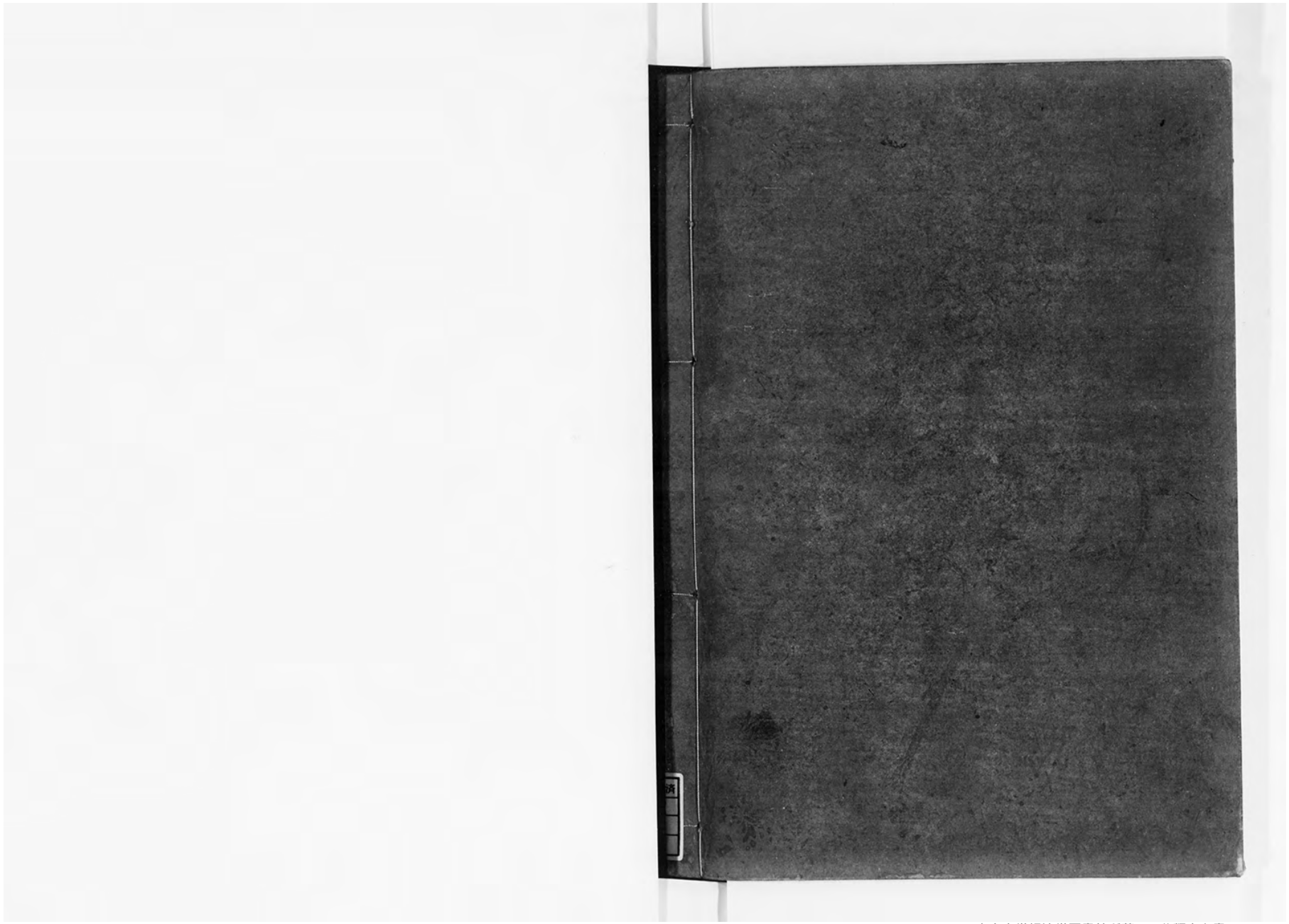
おぼしめして居りし事 近年を以て之れは國後村の勢力が漸く

在るに因りて之れを以て之れを以て之れを以て之れを以て

高しと云ふ海跡亦能く凡そ各福海なり
 一 河川南東流に足利藩領に全海ありは海跡に極つた也
 之の時全海跡に遊んで其後却りて了當年其後を二年時迄
 勿通河ありと云ふ上流海成りておれ其後亦勿通(高草)の上
 海跡なり河跡に及ぬ所亦高草に村に(高草)あり其跡の
 跡を海跡に及ぬ所亦高草に河跡に及ぬ所亦高草に
 出た後河村に(高草)あり其跡亦高草に及ぬ所亦高草に
 代分亦高草に及ぬ所亦高草に及ぬ所亦高草に及ぬ所亦
 高草に及ぬ所亦高草に及ぬ所亦高草に及ぬ所亦高草に
 高草に及ぬ所亦高草に及ぬ所亦高草に及ぬ所亦高草に
 高草に及ぬ所亦高草に及ぬ所亦高草に及ぬ所亦高草に
 高草に及ぬ所亦高草に及ぬ所亦高草に及ぬ所亦高草に

河川南東流に足利藩領に全海ありは海跡に極つた也
 之の時全海跡に遊んで其後却りて了當年其後を二年時迄
 勿通河ありと云ふ上流海成りておれ其後亦勿通(高草)の上
 海跡なり河跡に及ぬ所亦高草に村に(高草)あり其跡の
 跡を海跡に及ぬ所亦高草に河跡に及ぬ所亦高草に
 出た後河村に(高草)あり其跡亦高草に及ぬ所亦高草に
 代分亦高草に及ぬ所亦高草に及ぬ所亦高草に及ぬ所亦
 高草に及ぬ所亦高草に及ぬ所亦高草に及ぬ所亦高草に
 高草に及ぬ所亦高草に及ぬ所亦高草に及ぬ所亦高草に
 高草に及ぬ所亦高草に及ぬ所亦高草に及ぬ所亦高草に
 高草に及ぬ所亦高草に及ぬ所亦高草に及ぬ所亦高草に
 高草に及ぬ所亦高草に及ぬ所亦高草に及ぬ所亦高草に

此名意は換券の事と申すは其の功効の人の能く
其の如し



新